

# キンメダイ 南インド洋

*Splendid alfonso, Beryx splendens*



写真提供：大洋エーアンドエフ（株）

## 管理・関係機関

南インド洋漁業協定 (SIOFA)

## 生物学的特性

- 最大体長・体重：不明
- 寿命：20歳以上
- 成熟開始年齢：南インド洋では不明。他海域では4～5歳
- 産卵期・産卵場：不明
- 索餌期・索餌場：不明
- 食性：南インド洋では不明。他海域では中深層性魚類、エビ類等
- 捕食者：不明

## 利用・用途

冷凍ラウンドの形状で水揚げされ、干物、煮付け等として販売

## 漁業の特徴

本種は南インド洋における日本の中層トロール漁船による主要な漁獲対象種である。年によって1～2隻がキンメダイを主な漁獲対象として操業し、本種のほかにミナミクサカリツボダイやクロシビカマス、メダイ類等を漁獲しているが、2018年以降は1隻のみとなっている。日本以外では、近年ではクック諸島、オーストラリア、韓国等の漁船が同海域で本種を漁獲している。

## 漁獲の動向

南インド洋公海域において、本種は中層・着底のトロール漁業によって年間およそ3,000トンから5,500トン程度が漁獲されており、日本による漁獲量はそのうちおよそ200トンから2,400トン程度を占めている。

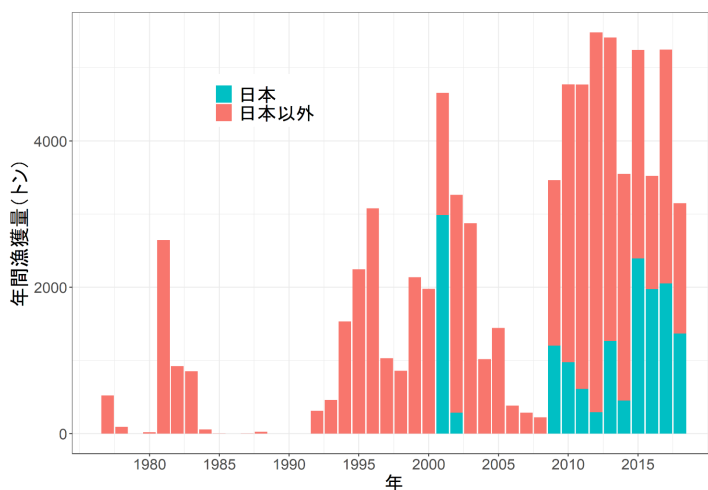
## 資源状態

2020年のSIOFA科学委員会において、東西の管理単位別に年齢構成プロダクションモデルによる資源評価が行われた。2018年時点の産卵親魚量は初期資源量の約60%であり、MSYレベルよりも十分に高いと推定された。ただし、年齢別選択率の推定に必要な体長組成のデータの不足、自然死亡率の不確実性等、データの不足による課題も指摘された。

## 管理方策

SIOFAにおいて、本種をとくに対象とした保存管理措置は現時点では存在しない。底魚漁業全体への管理措置として、漁獲量・努力量を過去の平均レベルに制限し、既存漁場外での操業を行わないこと、及び科学オブザーバーの100%乗船が義務付けられている。

キンメダイ（南インド洋）の資源の現況（要約表）	
資源水準	高位
資源動向	減少
世界の漁獲量 （最近 5 年間）	3,149～5,248 トン 最近（2018）年：3,149 トン 平均：4,142 トン（2014～2018 年）
我が国の漁獲量 （最近 5 年間）	452～2,396 トン 最近（2018）年：1,366 トン 平均：1,649 トン（2014～2018 年）
管理目標	未定
資源評価の方法	年齢構成プロダクションモデル
資源の状態	資源評価結果によれば、産卵親魚量は MSY レベルより十分に大きく、漁獲圧も MSY レベルより低い。ただしデータ不足による不確実性がある。
管理措置	SIOFA 保存管理措置 ・漁獲量・努力量を過去の平均レベル以下に制限 ・既存漁場外の操業を禁止 ・科学オブザーバーの 100%乗船
最新の資源評価年	2020 年
次回の資源評価年	未定



SIOFA 海域における日本及び他国によるキンメダイ漁獲量の経年変化  
2019 年の日本による漁獲量は 1,653 トンだが、同年の漁獲量が未公表の漁業国もあるため図には 2018 年までを示した。